

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	直近の更新年月日
大田原市	親園地区 (宇田川・荻野目地区)	令和2年2月22日	令和6年3月19日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	401 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	332 ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	100.69 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	47.22 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	- ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	96.27ha
(備考)	

2 対象地区の課題

宇田川地区では、圃場整備済ではあるが、水路やポンプの老朽化等の問題が出てきている。
 荻野目地区では、圃場整備未実施であり、道が狭い等の問題があり、耕作条件が悪い。
 両地区とも耕作放棄地はないが、イノシシの出没例があり、耕作放棄地になるとイノシシの住処になってしまう危険性があるため危機感を持っている。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

宇田川地区では、水路等の老朽化については、維持管理を徹底していく。また、農繁期には耕作時期をずらす等の対応を引き続き行い、水の不足等に対応していく。また、多面的機能支払の対象地区でもあるので、当該活動を継続し、農地の保全に努めていく。引き続き農地中間管理事業等を活用しながら地域内外での農地の貸借を循環させる。

荻野目地区では、耕作条件改善のためにも圃場整備の取組の検討をしていく。また、農地の保全及び耕作放棄地の発生防止のためにも多面的機能支払の取組開始を検討していく。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針（任意記載事項）

圃場整備への取組方針

荻野目地区では、農業の生産効率の向上や農地の集積・集約化を図るため、農地の大区画化・汎用化等の圃場整備の検討を進めていく。

多面的機能支払の取組方針

宇田川地区では、耕作放棄地の発生防止、地域のコミュニティ及び景観の維持につなげていくためにも、当該活動を引き続き継続させていく。また、荻野目地区においても当該活動の取組開始の検討をしていく。